

II 概 要

概 要

人口動態調査票は、「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により、市町村長に届け出られた出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の各届出書を基に作成されている。

人口動態統計は、この調査票をもとに統計的に把握したもので、行政施策の立案や保健医療行政の基礎資料として広く活用され、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしている。

また、この統計は、日本において発生した日本人の事象を集計したものである。

表1 人口動態総覧の前年比較

	実 数			率		全国(令和5年)		全国 順位	平均発生間隔			1日平 均件数
	令和5年	令和4年	増減	令和5年	令和4年	実数	率		時	分	秒	
各人口動態事象												
出 生	12,549	13,594	△1,045	8.7	9.4	727,288	6.0	1	－	41	53	34.4
死 亡	15,110	15,054	56	10.5	10.4	1,576,016	13.0	46	－	34	47	41.4
自 然 増 減	△ 2,561	△1,460	△1,101	△1.8	△1.0	△848,728	△7.0	－	－	－	－	－
乳 児 死 亡	22	23	△1	1.8	1.7	1,326	1.8	28	398	10	55	0.1
新生児死亡	9	7	2	0.7	0.5	600	0.8	26	973	20	－	0.0
死 産	312	299	13	24.3	21.5	15,534	20.9	4	28	4	37	0.9
自 然 死 産	165	157	8	12.8	11.3	7,152	9.6	－	53	5	27	0.5
人 工 死 産	147	142	5	11.4	10.2	8,382	11.3	－	59	35	31	0.4
周産期死亡	29	42	△13	2.3	3.1	2,404	3.3	47	302	4	8	0.1
妊娠満22週以後の死産	22	35	△ 13	1.8	2.6	1,943	2.7	－	398	10	55	0.1
早期新生児死亡	7	7	－	0.6	0.5	461	0.6	－	1,251	25	43	0.0
婚 姻	6,316	6,546	△230	4.4	4.5	474,741	3.9	4	1	23	13	17.3
離 婚	3,170	3,087	83	2.20	2.13	183,814	1.52	1	2	45	48	8.7
合計特殊出生率	－	－	－	1.60	1.70	－	1.20	1	－	－	－	－
五大死因												
悪 性 新 生 物	3,404	3,462	△58	235.9	239.4	382,504	315.6	47	2	34	24	9.3
心 疾 患	1,977	1,995	△18	137.0	138.0	231,148	190.7	46	4	25	51	5.4
脳 血 管 疾 患	980	1,020	△40	67.9	70.5	104,533	86.3	43	8	56	20	2.7
肺 炎	548	539	9	38.0	37.3	75,753	62.5	47	15	59	7	1.5
老 衰	1,881	1,723	158	130.4	119.2	189,919	156.7	43	4	39	26	5.2

- 1 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生+死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対。
- 2 周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの。
- 3 死因の死亡率は人口10万対。
- 4 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
- 5 順位は高順位である。

1 出 生

(1)出生の動向

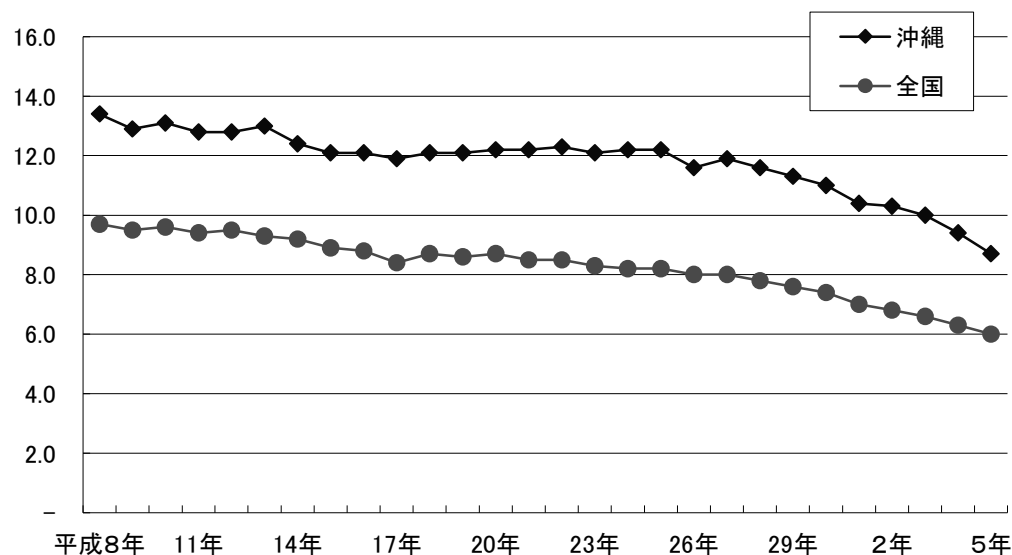
出生の動向を年次推移でみると、表2及び図1のとおりである。

令和5年の出生数は、12,549人で前年より1,045人減少した。出生率(人口千対)は、8.7で前年を0.7ポイント下回った。全国の出生率6.0と比較すると、2.7ポイント高く、順位は昭和49年以降50年連続して全国第1位である。

表2 出生数と率の年次推移

年次	出生数	出生率 (人口千対)	全国(率)	年次	出生数	出生率 (人口千対)	全国(率)
平成8年	17,064	13.4	9.7	22年	17,098	12.3	8.5
9年	16,614	12.9	9.5	23年	16,918	12.1	8.3
10年	16,928	13.1	9.6	24年	17,074	12.2	8.2
11年	16,680	12.8	9.4	25年	17,209	12.2	8.2
12年	16,773	12.8	9.5	26年	16,373	11.6	8.0
13年	17,169	13.0	9.3	27年	16,941	11.9	8.0
14年	16,571	12.4	9.2	28年	16,617	11.6	7.8
15年	16,303	12.1	8.9	29年	16,217	11.3	7.6
16年	16,362	12.1	8.8	30年	15,732	11.0	7.4
17年	16,115	11.9	8.4	令和元年	14,902	10.4	7.0
18年	16,483	12.1	8.7	2年	14,943	10.3	6.8
19年	16,588	12.1	8.6	3年	14,535	10.0	6.6
20年	16,736	12.2	8.7	4年	13,594	9.4	6.3
21年	16,744	12.2	8.5	5年	12,549	8.7	6.0

図 1 出生率の年次推移(人口千対)



(2) 出生順位の母親の年齢

表3は、出生した子とその子の母親の何番目の子(死産を除く)に当たるかをあらわす出生順位別出生数と割合を示している。

全国とその割合を比較すると、全国の第1子・第2子を合わせると、83.2%であるが、沖縄は、69.1%である。第3子・第4子以上を合わせた全国の割合は、16.8%、沖縄は30.9%であり、沖縄は、第3子・第4子以上の割合が全国と比べて高い傾向にある。

表3 出生順位別出生数と構成割合の年次推移

	総数		第1子		第2子		第3子		第4子以上	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
平成26年	16,373	100	6,416	39.2	5,043	30.8	3,142	19.2	1,772	10.8
27年	16,941	100	6,651	39.3	5,374	31.7	3,175	18.7	1,741	10.3
28年	16,617	100	6,425	38.7	5,286	31.8	3,120	18.8	1,786	10.7
29年	16,217	100	6,160	38.0	5,251	32.4	3,108	19.2	1,698	10.5
30年	15,732	100	5,996	38.1	5,015	31.9	3,047	19.4	1,674	10.6
令和元年	14,902	100	5,545	37.2	4,852	32.6	2,906	19.5	1,599	10.7
2年	14,943	100	5,617	37.6	4,745	31.8	2,885	19.3	1,696	11.3
3年	14,535	100	5,347	36.8	4,694	32.3	2,790	19.2	1,704	11.7
4年	13,594	100	4,945	36.4	4,397	32.3	2,621	19.3	1,631	12.0
5年	12,549	100	4,617	36.8	4,055	32.3	2,456	19.6	1,421	11.3
全国(R5年)	727,288	100	338,908	46.6	266,195	36.6	92,088	12.7	30,097	4.1

表4は、母親の年齢別にみた出生数とその割合である。これによると、沖縄の～19歳の割合は1.3%となっており、全国の～19歳の割合0.6の約2倍となっている。

表4 母親の年齢別出生数と構成割合の年次推移

年次	総数	～14歳	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50歳～	不詳
実数											
平成26年	16,373	3	423	1,993	4,373	5,132	3,555	866	25	3	－
27年	16,941	2	434	2,004	4,359	5,557	3,577	979	28	1	－
28年	16,617	1	436	1,961	4,118	5,521	3,577	966	36	1	－
29年	16,217	3	394	1,927	3,988	5,324	3,558	989	34	－	－
30年	15,732	1	379	1,815	3,789	5,233	3,519	958	36	2	－
令和元年	14,902	2	327	1,753	3,608	4,836	3,418	926	30	2	－
2年	14,943	1	276	1,694	3,675	4,851	3,486	937	23	－	－
3年	14,535	－	235	1,555	3,606	4,630	3,515	962	32	－	－
4年	13,594	－	179	1,313	3,410	4,369	3,351	937	35	－	－
5年	12,549	1	164	1,251	3,114	4,032	3,022	931	31	3	－
全国(R5年)	727,288	27	4,325	47,195	189,338	265,109	173,523	46,020	1,645	100	6
割合％											
平成26年	100	0.0	2.6	12.2	26.7	31.3	21.7	5.3	0.2	0.0	－
27年	100	0.0	2.6	11.8	25.7	32.8	21.1	5.8	0.2	0.0	－
28年	100	0.0	2.6	11.8	24.8	33.2	21.5	5.8	0.2	0.0	－
29年	100	0.0	2.4	11.9	24.6	32.8	21.9	6.1	0.2	－	－
30年	100	0.0	2.4	11.5	24.1	33.3	22.4	6.1	0.2	0.0	－
令和元年	100	0.0	2.2	11.8	24.2	32.5	22.9	6.2	0.2	0.0	－
2年	100	0.0	1.8	11.3	24.6	32.5	23.3	6.3	0.2	－	－
3年	100	－	1.6	10.7	24.8	31.9	24.2	6.6	0.2	－	－
4年	100	－	1.3	9.7	25.1	32.1	24.7	6.9	0.3	－	－
5年	100	0.0	1.3	10.0	24.8	32.1	24.1	7.4	0.2	0.0	－
全国(R5年)	100	0.0	0.6	6.5	26.0	36.5	23.9	6.3	0.2	0.0	0.0

表5は母親の年齢と出生順位とを組み合わせ、出生順位別の母親の平均年齢をみたものである。

これによると、令和5年は第1子が30.1歳、第2子が 31.9歳、第3子が33.1歳となっている。

注)
平均期間は平成4年から次の方法により算出
同居から第1子出生までの平均期間
平均期間(年)=Σ同居期間(月)÷件数÷12
同居期間(月)=子の生年月日-同居開始年月

表5 出生順位別母親の平均年齢、父母が結婚生活に入ってから出生順位第1子出生までの平均期間の年次推移

年次	総数	第1子	第2子	第3子	平均期間 (年)
平成26年	30.9	29.2	31.0	32.5	1.96
27年	31.0	29.4	31.0	32.7	1.95
28年	31.1	29.5	31.2	32.5	2.01
29年	31.1	29.6	31.2	32.5	2.12
30年	31.2	29.5	31.4	32.6	2.08
令和元年	31.2	29.5	31.5	32.7	2.15
2年	31.3	29.6	31.6	32.8	2.12
3年	31.5	29.8	31.5	33.2	2.22
4年	31.7	30.0	31.6	33.1	2.35
5年	31.7	30.1	31.9	33.1	2.43
全国(R5年)	32.3	31.0	33.0	34.2	2.79

(3) 出生の場所と立会者・出生時の体重

表6、表7はそれぞれ、出生の場所別の出生数と構成割合の年次推移、各出生場所の立会者別の出生割合の年次推移を示したものである。

表6 出生の場所別出生数と構成割合の年次推移

年次	総数	病院	診療所	助産所	自宅	その他
出 生 数						
平成26年	16,373	9,936	6,363	30	35	9
27年	16,941	10,212	6,643	49	26	11
28年	16,617	10,361	6,188	41	17	10
29年	16,217	10,048	6,100	42	21	6
30年	15,732	9,817	5,837	39	30	9
令和元年	14,902	9,774	5,072	36	14	6
2年	14,943	9,765	5,115	37	22	4
3年	14,535	9,149	5,304	60	18	4
4年	13,594	8,991	4,532	44	21	6
5年	12,549	8,456	4,020	35	32	6
全国(R5年)	727,288	394,648	328,064	3,461	877	238
割 合 %						
平成26年	100	60.7	38.9	0.2	0.2	0.1
27年	100	60.3	39.2	0.3	0.2	0.1
28年	100	62.4	37.2	0.2	0.1	0.1
29年	100	62.0	37.6	0.3	0.1	0.0
30年	100	62.4	37.1	0.2	0.2	0.1
令和元年	100	65.6	34.0	0.2	0.1	0.0
2年	100	65.3	34.2	0.2	0.1	0.0
3年	100	62.9	36.5	0.4	0.1	0.0
4年	100	66.1	33.3	0.3	0.2	0.0
5年	100	67.4	32.0	0.3	0.3	0.0
全国(R5年)	100	54.3	45.1	0.5	0.1	0.0

表7 出生の場所、立会者別出生割合の年次推移

年次	総数				病院・診療所・助産所		自宅・その他		
	総 数	医師立会	助産師立会	その他	医師立会	助産師立会	医師立会	助産師立会	その他
平成26年	100	99.6	0.3	0.1	99.5	0.3	0.1	0.1	0.1
27年	100	99.6	0.4	0.1	99.5	0.3	0.1	0.1	0.1
28年	100	99.5	0.4	0.1	99.4	0.3	0.1	0.0	0.1
29年	100	99.6	0.3	0.1	99.6	0.3	0.1	0.0	0.1
30年	100	99.6	0.3	0.1	99.5	0.3	0.1	0.0	0.1
令和元年	100	99.5	0.4	0.2	99.4	0.3	0.1	0.0	0.2
2年	100	99.6	0.3	0.1	99.6	0.3	0.0	0.0	0.1
3年	100	99.6	0.3	0.1	99.5	0.3	0.1	0.0	0.1
4年	100	95.0	4.9	0.0	95.0	4.9	0.1	0.1	0.0
5年	100	99.5	0.5	0.1	99.3	0.4	0.2	0.1	0.1
全国(R5年)	100	95.1	4.9	0.0	95.0	4.8	0.1	0.1	0.0

表8は、出生時における体重別にみた出生割合である。これによると、2.5kg以上3.0kg未満が39.4%、3.0kg以上3.5kg未満が38.9%となっている。

また、表9は、性別にみた出生時の平均体重及び2,500g未満の出生数とその割合の年次推移である。これによると、令和5年の2,500g未満の低体重児の全出生数に占める割合は12.1%となっている。

表8 出生時の体重別にみた性別出生数

体重	実数			構成割合(%)		
	総数	男	女	総数	男	女
総 数	12,549	6,346	6,203	100	100	100
0.5kg未満	7	2	5	0.1	0.0	0.1
0.5kg以上～1.0kg未満	54	27	27	0.4	0.4	0.4
1.0～1.5	69	37	32	0.5	0.6	0.5
1.5～2.0	240	121	119	1.9	1.9	1.9
2.0～2.5	1,148	484	664	9.1	7.6	10.7
2.5～3.0	4,944	2,305	2,639	39.4	36.3	42.5
3.0～3.5	4,887	2,641	2,246	38.9	41.6	36.2
3.5～4.0	1,135	680	455	9.0	10.7	7.3
4.0～4.5	63	47	16	0.5	0.7	0.3
4.5～5.0	－	－	－	－	－	－
5.0kg～	－	－	－	－	－	－
不 詳	2	2	－	0.0	0.0	－

表9 性別にみた出生時の平均体重及び2,500g未満の出生数とその割合の年次推移

年次	平均体重(kg)		総数			男			女		
	男	女	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)
平成26年	3.01	2.93	16,373	1,876	11.5	8,427	869	10.3	7,946	1,007	12.7
27年	3.01	2.94	16,941	1,848	10.9	8,744	875	10.0	8,197	973	11.9
28年	3.01	2.93	16,617	1,873	11.3	8,522	875	10.3	8,095	998	12.3
29年	3.01	2.94	16,217	1,798	11.1	8,170	836	10.2	8,047	962	12.0
30年	3.01	2.93	15,732	1,728	11.0	8,165	794	9.7	7,567	934	12.3
令和元年	3.01	2.93	14,902	1,662	11.2	7,661	793	10.4	7,241	869	12.0
2年	3.02	2.94	14,943	1,628	10.9	7,637	772	10.1	7,306	856	11.7
3年	3.01	2.95	14,535	1,615	11.1	7,507	776	10.3	7,028	839	11.9
4年	3.01	2.93	13,594	1,535	11.3	6,886	683	9.9	6,708	852	12.7
5年	3.00	2.92	12,549	1,518	12.1	6,346	671	10.6	6,203	847	13.7
全国(R5年)	3.04	2.96	727,288	70,151	9.6	372,603	31,690	8.5	354,685	38,461	10.8

(4) 嫡出でない子の出生

法律上の婚姻関係にある女(母親)から産まれた子を嫡出子といい、そうでない子を嫡出でない子という。

表10は、母親の年齢別にみた「嫡出でない子」の出生数と割合の年次推移である。これによると、嫡出でない子の全出生数に占める割合は、令和5年は4.7%である。

同じ年齢の母親から産まれた子供に対する嫡出でない子の占める割合では、19歳以下の若い母親が51.5%で最も多くなっている。

表10 母親の年齢別にみた「嫡出でない子」の出生数と割合の年次推移

年次	総数		～19歳		20～24		25～29		30～34		35～39		40～	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
平成26年	741	4.5	164	38.5	165	8.3	127	2.9	115	2.2	122	3.4	48	5.4
27年	722	4.3	158	36.2	167	8.3	127	2.9	117	2.1	101	2.8	52	5.2
28年	720	4.3	171	39.1	146	7.4	122	3.0	142	2.6	101	2.8	38	3.8
29年	680	4.2	154	38.8	146	7.6	114	2.9	113	2.1	109	3.1	44	4.3
30年	640	4.1	133	35.0	140	7.7	100	2.6	137	2.6	91	2.6	39	3.9
令和元年	625	4.2	116	35.3	152	8.7	112	3.1	98	2.0	107	3.1	40	4.2
2年	657	4.4	87	31.4	167	9.9	132	3.6	130	2.7	93	2.7	48	5.0
3年	581	4.0	87	37.0	151	9.7	109	3.0	106	2.3	94	2.7	34	3.4
4年	575	4.2	81	45.3	122	9.3	126	3.7	93	2.1	100	3.0	53	5.5
5年	585	4.7	85	51.5	153	12.2	105	3.4	101	2.5	91	3.0	50	5.2
全国 (R5年)	17,860	2.5	1,707	39.2	4,011	8.5	3,942	2.1	3,423	1.3	3,247	1.9	1,524	3.2

注 1.総数には年齢不詳を含む。

2.割合は同じ年齢の母親による出生数に対する百分率である。

2. 死亡

(1) 死亡の動向

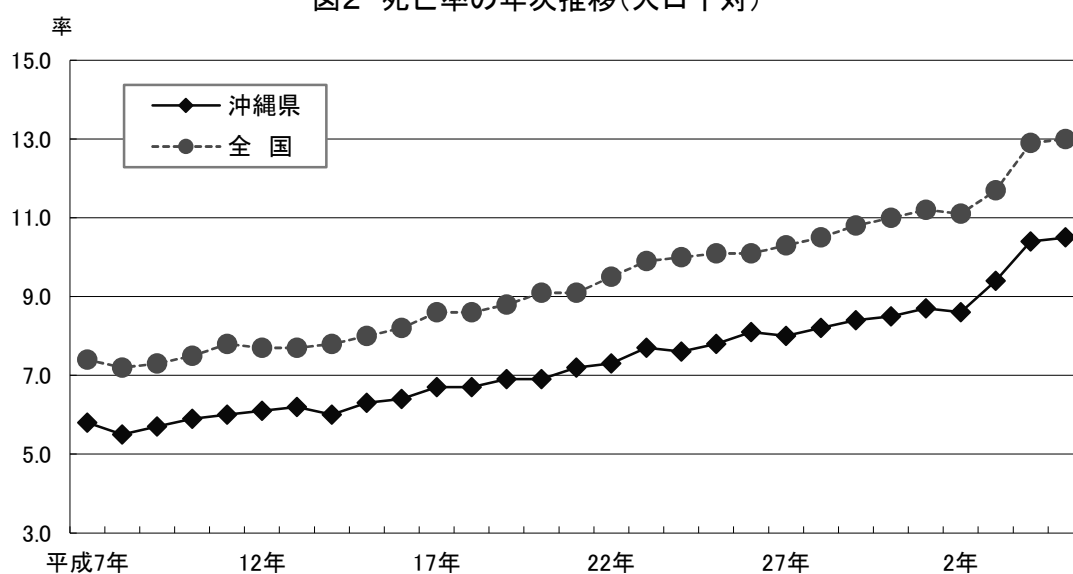
表11は、死亡数と死亡率の年次推移である。これによると、令和5年の死亡数は、15,110人で前年より56人増加した。また、人口千対の死亡率は10.5で前年より0.1ポイント減少した。

これを全国の13.0と比較すると、2.5ポイント下回っており、全国第46位である。

表11 死亡数と率の年次推移

年次	死亡数	死亡率(人口千対)	
		沖縄県	全国
平成7年	7,283	5.8	7.4
8年	7,038	5.5	7.2
9年	7,381	5.7	7.3
10年	7,643	5.9	7.5
11年	7,880	6.0	7.8
12年	7,946	6.1	7.7
13年	8,132	6.2	7.7
14年	8,037	6.0	7.8
15年	8,433	6.3	8.0
16年	8,610	6.4	8.2
17年	9,021	6.7	8.6
18年	9,121	6.7	8.6
19年	9,399	6.9	8.8
20年	9,492	6.9	9.1
21年	9,923	7.2	9.1
22年	10,156	7.3	9.5
23年	10,686	7.7	9.9
24年	10,626	7.6	10.0
25年	10,956	7.8	10.1
26年	11,361	8.1	10.1
27年	11,326	8.0	10.3
28年	11,706	8.2	10.5
29年	11,945	8.4	10.8
30年	12,157	8.5	11.0
令和元年	12,509	8.7	11.2
2年	12,390	8.6	11.1
3年	13,582	9.4	11.7
4年	15,054	10.4	12.9
5年	15,110	10.5	13.0

図2 死亡率の年次推移(人口千対)



(2) 死因

人口動態統計に用いる死因分類は、平成7年から世界保健機構(WHO)が定めた国際疾病分類(ICD)の第10回修正(ICD-10)、平成18年からICD-10(2003年版)に準拠した分類、平成29年からは「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回改定(ICD-10)(2013年版)」に準拠して設定される「疾病、傷害及び死因の統計分類(平成27年2月13日総務省告示第35号。令和3年4月19日総務省告示第159号一部改正)」が適用されている。

なお、昭和54年から平成6年までは第9回修正、昭和53年以前は第8回修正によっており、死因分類の名称や内容の変更等があり年次推移を見る場合留意されたい。

表12は、令和5年の総死亡数について、死因順位の第5位までの死亡数、死亡割合を年齢区分別に示したものである。それによると第1位は悪性新生物でその死亡数は3,404人、総死亡数に占める割合は22.5%となっている。

表13、表14は、それぞれ本県と全国の死因別死亡率について、第8位までを示したものであるが、前述したとおり、人口動態統計に用いる死因分類の変化に留意されたい。

表13によると、戦前から戦後の昭和27年頃まで上位を占めていた胃腸炎(旧胃炎、十二指腸炎、腸炎及び大腸炎)、肺炎及び気管支炎、全結核などの感染症疾患は、次第に後退し、これに代わって生活習慣病と不慮の事故、自殺が台頭してきた。

また、悪性新生物は昭和45年から第2位となり、52年以来第1位が続いている。

なお、令和5年の新型コロナウイルス感染症による死亡数は395人、死亡率は27.4、死亡総数に占める割合は2.6%となっている。

(3) 年齢からみた死因

表12で、年齢階級別に死因順位をみると、65歳以上では死因の第1位が悪性新生物、第2位が老衰、第3位が心疾患、第4位が脳血管疾患となっている。

表12 年齢階級別

年齢	総数		第1位			第2位		
	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
総 数	15,110	100	悪性新生物	3,404	22.5	心疾患	1,977	13.1
1歳未満	22	100	先天異常	6	27.3	呼吸障害	3	13.6
0～4歳	34	100	先天異常	11	32.4	周産期に発生した病態	4	11.8
5～9歳	7	100	悪性新生物	1	14.3	その他の新生物	1	14.3
10～14歳	7	100	自殺	3	42.9	インフルエンザ	1	14.3
15～19歳	22	100	自殺	7	31.8	不慮の事故	6	27.3
20～24歳	35	100	自殺	10	28.6	不慮の事故	7	20.0
25～29歳	30	100	自殺	15	50.0	心疾患	4	13.3
30～34歳	37	100	自殺	9	24.3	悪性新生物	7	18.9
35～39歳	73	100	自殺	18	24.7	悪性新生物	16	21.9
40～44歳	109	100	悪性新生物	29	26.6	肝疾患	19	17.4
45～49歳	222	100	悪性新生物	55	24.8	肝疾患	33	14.9
50～54歳	324	100	悪性新生物	102	31.5	肝疾患	42	13.0
55～59歳	389	100	悪性新生物	120	30.8	肝疾患	45	11.6
60～64歳	658	100	悪性新生物	263	40.0	心疾患	65	9.9
65～69歳	947	100	悪性新生物	369	39.0	心疾患	105	11.1
70～74歳	1,551	100	悪性新生物	568	36.6	心疾患	186	12.0
75～79歳	1,288	100	悪性新生物	425	33.0	心疾患	168	13.0
80～84歳	2,010	100	悪性新生物	456	22.7	心疾患	270	13.4
85歳以上	7,367	100	老衰	1,671	22.7	心疾患	1,073	14.6
(65歳以上)	13,163	100	悪性新生物	2,806	21.3	老衰	1,880	14.3

注：1 乳児（1歳未満）の死因については、乳児死因简单分類を使用した。

2 死因名は次のように略した。

先天異常 → 先天奇形、変形及び染色体異常

呼吸障害 → 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害

妊娠期間障害→妊娠期間及び胎児発育に関する障害

出血性障害→胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害

死因順位

令和5年

第3位			第4位			第5位		
死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
老衰	1,881	12.4	脳血管疾患	980	6.5	肺炎	548	3.6
心疾患	2	9.1	敗血症	1	4.5	代謝障害	1	4.5
敗血症	2	5.9	心疾患	2	5.9	脳血管疾患	1	2.9
心疾患	1	14.3	脳血管疾患	1	14.3	インフルエンザ	1	14.3
ヘルニア及び腸閉塞	1	14.3	先天異常	1	14.3	不慮の事故	1	33.3
悪性新生物	1	4.5	心疾患	1	4.5	脳血管疾患	1	14.3
心疾患	4	11.4	悪性新生物	2	5.7	糖尿病	2	5.7
悪性新生物	2	6.7	不慮の事故	2	6.7	インフルエンザ	1	3.3
脳血管疾患	3	8.1	肝疾患	3	8.1	心疾患	2	5.4
心疾患	8	11.0	脳血管疾患	6	8.2	肝疾患	6	8.2
自殺	14	12.8	心疾患	6	5.5	脳血管疾患	6	5.5
自殺	26	11.7	脳血管疾患	22	9.9	心疾患	18	8.1
自殺	32	9.9	心疾患	21	6.5	脳血管疾患	20	6.2
心疾患	43	11.1	脳血管疾患	36	9.3	自殺	25	6.4
肝疾患	63	9.6	脳血管疾患	40	6.1	自殺	29	4.4
脳血管疾患	55	5.8	肝疾患	55	5.8	自殺	31	3.3
脳血管疾患	99	6.4	間質性肺疾患疾患	44	2.8	肺炎	41	2.6
脳血管疾患	93	7.2	肺炎	45	3.5	老衰	43	3.3
脳血管疾患	150	7.5	老衰	148	7.4	誤嚥性肺炎	87	4.3
悪性新生物	988	13.4	脳血管疾患	447	6.1	肺炎	341	4.6
心疾患	1,802	13.7	脳血管疾患	844	6.4	肺炎	521	4.0

3 死因順位は死亡数の多いものから定めた。死亡数が同数の場合は分類番号の若いものから記載した。

4 総数には、年齢不詳及び「死因順位に用いる分類項目」に含まれない死因が含まれる。

5 「心疾患」は「心疾患(高血圧性を除く)」である。

表13 年次別にみた

年次	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
大正11年	胃腸炎	235.3	肺炎及び気管支炎	212.5	全結核	208.2	老衰	132.8
昭和5年	胃腸炎	284.0	全結核	223.4	肺炎及び気管支炎	206.4	老衰	144.8
50	脳血管疾患	98.3	悪性新生物	80.4	老衰	63.1	心疾患	58.9
55	悪性新生物	103.0	脳血管疾患	77.8	心疾患	70.5	老衰	43.6
平成元年	悪性新生物	117.0	心疾患	88.7	肺炎及び気管支炎	49.8	脳血管疾患	49.5
2	悪性新生物	127.4	心疾患	96.5	肺炎及び気管支炎	57.7	脳血管疾患	51.1
3	悪性新生物	127.2	心疾患	90.2	肺炎及び気管支炎	53.8	脳血管疾患	51.1
4	悪性新生物	141.6	心疾患	93.8	肺炎及び気管支炎	61.8	脳血管疾患	52.6
5	悪性新生物	140.3	心疾患	108.8	肺炎及び気管支炎	66.3	脳血管疾患	48.3
6	悪性新生物	141.7	心疾患	89.2	肺炎及び気管支炎	64.2	脳血管疾患	51.0
7	悪性新生物	153.5	心疾患	71.4	脳血管疾患	65.1	肺炎	58.8
8	悪性新生物	158.7	心疾患	72.2	脳血管疾患	62.7	肺炎	49.8
9	悪性新生物	157.8	心疾患	81.3	脳血管疾患	64.7	肺炎	54.9
10	悪性新生物	164.8	心疾患	81.5	脳血管疾患	63.9	肺炎	56.8
11	悪性新生物	160.9	心疾患	83.8	脳血管疾患	62.4	肺炎	60.3
12	悪性新生物	167.3	心疾患	84.8	脳血管疾患	65.4	肺炎	54.7
13	悪性新生物	172.1	心疾患	84.2	脳血管疾患	60.4	肺炎	56.8
14	悪性新生物	181.0	心疾患	86.3	脳血管疾患	60.9	肺炎	53.0
15	悪性新生物	173.2	心疾患	90.6	脳血管疾患	63.8	肺炎	60.8
16	悪性新生物	186.1	心疾患	86.6	脳血管疾患	67.0	肺炎	57.7
17	悪性新生物	185.7	心疾患	93.0	肺炎	66.7	脳血管疾患	58.5
18	悪性新生物	185.3	心疾患	95.2	肺炎	61.3	脳血管疾患	59.1
19	悪性新生物	191.3	心疾患	96.2	脳血管疾患	64.9	肺炎	61.4
20	悪性新生物	198.5	心疾患	99.9	肺炎	65.9	脳血管疾患	61.4
21	悪性新生物	192.2	心疾患	104.5	肺炎	68.7	脳血管疾患	61.7
22	悪性新生物	198.2	心疾患	105.3	脳血管疾患	66.3	肺炎	65.3
23	悪性新生物	203.7	心疾患	109.8	肺炎	67.1	脳血管疾患	65.8
24	悪性新生物	207.9	心疾患	111.8	肺炎	65.5	脳血管疾患	59.5
25	悪性新生物	213.3	心疾患	107.9	肺炎	70.9	脳血管疾患	60.8
26	悪性新生物	210.1	心疾患	113.5	肺炎	63.7	脳血管疾患	63.3
27	悪性新生物	219.5	心疾患	108.5	肺炎	63.3	脳血管疾患	62.2
28	悪性新生物	215.4	心疾患	117.0	脳血管疾患	65.3	肺炎	61.1
29	悪性新生物	212.3	心疾患	118.0	脳血管疾患	67.0	老衰	53.3
30	悪性新生物	216.1	心疾患	118.9	脳血管疾患	70.9	老衰	65.3
令和元年	悪性新生物	228.1	心疾患	119.7	脳血管疾患	70.3	老衰	66.1
2	悪性新生物	226.2	心疾患	115.3	老衰	73.0	脳血管疾患	67.6
3	悪性新生物	238.3	心疾患	125.1	老衰	90.3	脳血管疾患	66.9
4	悪性新生物	239.4	心疾患	138.0	老衰	119.2	脳血管疾患	70.5
5	悪性新生物	235.9	心疾患	137.0	老衰	130.4	脳血管疾患	67.9

注1)「腎炎、ネフローゼ症候群及びネフローゼ」は「腎炎及びネフローゼ症候群」と略している。

死因順位(沖縄県)

第5位		第6位		第7位		第8位		年次
死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	
胃腸炎	86.3							大正11年
腎炎及びネフローゼ	91.3							昭和5年
肺炎及び気管支炎	37.3	不慮の事故	31.8	自殺	14.2	高血圧性疾患	11.6	50
肺炎及び気管支炎	29.2	不慮の事故及び有害作用	22.8	自殺	14.8	慢性肝硬変	7.7	55
老衰	20.7	不慮の事故及び有害作用	18.6	自殺	16.8	腎炎及びネフローゼ症候群	11.6	平成元年
老衰	22.4	不慮の事故及び有害作用	21.8	自殺	17.6	腎炎及びネフローゼ症候群	13.1	2
不慮の事故及び有害作用	20.1	老衰	19.0	自殺	17.7	腎炎及びネフローゼ症候群	11.4	3
不慮の事故及び有害作用	22.8	老衰	20.7	自殺	18.9	腎炎及びネフローゼ症候群	11.0	4
不慮の事故及び有害作用	23.3	老衰	19.1	自殺	17.7	腎炎及びネフローゼ症候群	13.3	5
不慮の事故及び有害作用	20.3	自殺	19.9	老衰	18.0	腎炎及びネフローゼ症候群	11.9	6
不慮の事故	25.9	慢性閉塞性肺疾患	20.9	自殺	19.5	老衰	13.6	7
不慮の事故	21.8	自殺	17.5	慢性閉塞性肺疾患	15.2	老衰	13.5	8
不慮の事故	24.6	自殺	18.8	慢性閉塞性肺疾患	17.2	老衰	13.5	9
自殺	24.3	不慮の事故	23.6	慢性閉塞性肺疾患	15.9	老衰	14.4	10
自殺	25.4	不慮の事故	25.2	慢性閉塞性肺疾患	18.1	老衰	14.6	11
自殺	26.5	不慮の事故	22.1	慢性閉塞性肺疾患	18.0	肝疾患	14.3	12
自殺	23.6	不慮の事故	22.8	慢性閉塞性肺疾患	19.6	肝疾患	13.3	13
自殺	24.6	不慮の事故	18.8	慢性閉塞性肺疾患	17.0	肝疾患	13.6	14
自殺	26.1	不慮の事故	23.9	慢性閉塞性肺疾患	16.2	肝疾患	13.9	15
自殺	23.5	不慮の事故	22.3	慢性閉塞性肺疾患	16.0	肝疾患	15.8	16
自殺	24.2	不慮の事故	20.9	慢性閉塞性肺疾患	17.9	肝疾患	17.7	17
自殺	27.5	不慮の事故	23.1	肝疾患	16.3	老衰	14.1	18
自殺	23.4	不慮の事故	23.3	肝疾患	18.1	老衰	17.3	19
自殺	24.0	不慮の事故	19.6	肝疾患	17.5	慢性閉塞性肺疾患 慢性閉塞性肺疾患・老衰	16.6	20
自殺	27.9	不慮の事故	23.7	肝疾患	18.8		16.1	21
自殺	25.5	不慮の事故	21.3	老衰	19.2	慢性閉塞性肺疾患	18.0	22
自殺	27.2	老衰	24.9	不慮の事故	20.8	肝疾患	17.1	23
老衰	27.7	自殺	20.3	不慮の事故	19.2	肝疾患	18.7	24
老衰	34.3	不慮の事故	20.8	自殺	20.8	肝疾患	20.4	25
老衰	40.5	不慮の事故	23.5	自殺	20.3	肝疾患	19.1	26
老衰	44.4	自殺	20.7	不慮の事故	20.2	肝疾患	17.0	27
老衰	52.3	不慮の事故	20.0	自殺	18.9	肝疾患	18.4	28
肺炎	48.2	誤嚥性肺炎	25.2	不慮の事故	23.2	肝疾患	20.7	29
肺炎	47.1	誤嚥性肺炎	25.5	肝疾患	21.8	不慮の事故	19.0	30
肺炎	44.7	誤嚥性肺炎	25.2	肝疾患	23.0	不慮の事故	19.7	令和元年
肺炎	31.8	誤嚥性肺炎	26.4	肝疾患	23.8	腎不全	18.8	2
肺炎	33.8	誤嚥性肺炎	28.4	肝疾患	23.8	不慮の事故	20.4	3
肺炎	37.3	誤嚥性肺炎	31.8	肝疾患	25.2	不慮の事故	21.9	4
肺炎	38.0	誤嚥性肺炎	34.2	肝疾患	28.6	新型コロナウイルス感染症	27.4	5

注2) 死因の分類について、平成29年からは「ICD-10(2013年版)」が適用されている。

表14 年次別にみた

年次	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
大正14年	肺炎及び気管支炎	275.6	胃腸炎	238.2	全結核	194.1	脳血管疾患	161.2
昭和5年	胃腸炎	221.4	肺炎及び気管支炎	200.1	全結核	185.6	脳血管疾患	162.8
50	脳血管疾患	156.7	悪性新生物	122.6	心疾患	89.2	肺炎及び気管支炎	33.7
55	脳血管疾患	139.5	悪性新生物	139.1	心疾患	106.2	肺炎及び気管支炎	33.7
平成元年	悪性新生物	173.6	心疾患	128.1	脳血管疾患	98.5	肺炎及び気管支炎	52.7
2	悪性新生物	177.2	心疾患	134.8	脳血管疾患	99.4	肺炎及び気管支炎	60.7
3	悪性新生物	181.7	心疾患	137.2	脳血管疾患	96.2	肺炎及び気管支炎	62.0
4	悪性新生物	187.8	心疾患	142.2	脳血管疾患	95.6	肺炎及び気管支炎	65.0
5	悪性新生物	190.4	心疾患	145.6	脳血管疾患	96.0	肺炎及び気管支炎	70.6
6	悪性新生物	196.4	心疾患	128.6	脳血管疾患	96.9	肺炎及び気管支炎	72.4
7	悪性新生物	211.6	脳血管疾患	117.9	心疾患	112.0	肺炎	64.1
8	悪性新生物	217.5	脳血管疾患	112.6	心疾患	110.8	肺炎	56.9
9	悪性新生物	220.4	心疾患	112.2	脳血管疾患	111.0	肺炎	63.1
10	悪性新生物	226.7	心疾患	114.3	脳血管疾患	110.0	肺炎	63.8
11	悪性新生物	231.6	心疾患	120.4	脳血管疾患	110.8	肺炎	74.9
12	悪性新生物	235.2	心疾患	116.8	脳血管疾患	105.5	肺炎	69.2
13	悪性新生物	238.8	心疾患	117.8	脳血管疾患	104.7	肺炎	67.8
14	悪性新生物	241.7	心疾患	121.0	脳血管疾患	103.4	肺炎	69.4
15	悪性新生物	245.4	心疾患	126.5	脳血管疾患	104.7	肺炎	75.3
16	悪性新生物	253.9	心疾患	126.5	脳血管疾患	102.3	肺炎	75.7
17	悪性新生物	258.3	心疾患	137.2	脳血管疾患	105.3	肺炎	85.0
18	悪性新生物	261.0	心疾患	137.2	脳血管疾患	101.7	肺炎	85.0
19	悪性新生物	266.9	心疾患	139.2	脳血管疾患	100.8	肺炎	87.4
20	悪性新生物	272.3	心疾患	144.4	脳血管疾患	100.9	肺炎	91.6
21	悪性新生物	273.5	心疾患	143.7	脳血管疾患	97.2	肺炎	89.0
22	悪性新生物	279.7	心疾患	149.8	脳血管疾患	97.7	肺炎	94.1
23	悪性新生物	283.2	心疾患	154.5	肺炎	98.9	脳血管疾患	98.2
24	悪性新生物	286.6	心疾患	157.9	肺炎	98.4	脳血管疾患	96.5
25	悪性新生物	290.3	心疾患	156.5	肺炎	97.8	脳血管疾患	94.1
26	悪性新生物	293.5	心疾患	157.0	肺炎	95.4	脳血管疾患	91.1
27	悪性新生物	295.5	心疾患	156.5	肺炎	96.5	脳血管疾患	89.4
28	悪性新生物	298.3	心疾患	158.4	肺炎	95.4	脳血管疾患	87.4
29	悪性新生物	299.5	心疾患	164.3	脳血管疾患	88.2	老衰	81.3
30	悪性新生物	300.7	心疾患	167.6	老衰	88.2	脳血管疾患	87.1
令和元年	悪性新生物	304.2	心疾患	167.9	老衰	98.5	脳血管疾患	86.1
2	悪性新生物	306.6	心疾患	166.6	老衰	107.3	脳血管疾患	83.5
3	悪性新生物	310.7	心疾患	174.9	老衰	123.8	脳血管疾患	85.2
4	悪性新生物	316.1	心疾患	190.9	老衰	147.1	脳血管疾患	88.1
5	悪性新生物	315.6	心疾患	190.7	老衰	156.7	脳血管疾患	86.3

注1)「腎炎、ネフローゼ症候群及びネフローゼ」は「腎炎及びネフローゼ症候群」と略している。

死因順位(全国)

第5位		第6位		第7位		第8位		年次
死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	
老衰	117.3							大正14年
老衰	118.8							昭和5年
不慮の事故	30.3	老衰	26.9	自殺	18.0	高血圧性疾患	17.8	50
老衰	27.6	不慮の事故及び有害作用	25.1	自殺	17.7	慢性肝疾患及び肝硬変	14.2	55
不慮の事故及び有害作用	25.4	老衰	19.4	自殺	17.3	慢性肝疾患及び肝硬変	13.6	平成元年
不慮の事故及び有害作用	26.2	老衰	19.7	自殺	16.4	腎炎及びネフローゼ症候群	14.0	2
不慮の事故及び有害作用	26.9	老衰	18.8	自殺	16.1	腎炎及びネフローゼ症候群	13.8	3
不慮の事故及び有害作用	28.1	老衰	18.9	自殺	16.9	腎炎及びネフローゼ症候群	14.8	4
不慮の事故及び有害作用	28.0	老衰	18.7	自殺	16.6	腎炎及びネフローゼ症候群	14.9	5
不慮の事故及び有害作用	29.1	老衰	18.9	自殺	16.9	腎炎及びネフローゼ症候群	15.1	6
不慮の事故	36.5	老衰	17.3	自殺	17.2	肝疾患	13.7	7
不慮の事故	31.4	自殺	17.8	老衰	16.7	肝疾患	13.2	8
不慮の事故	31.1	自殺	18.8	老衰	17.2	腎不全	13.3	9
不慮の事故	31.1	自殺	25.4	老衰	17.1	腎不全	13.3	10
不慮の事故	32.0	自殺	25.0	老衰	18.2	腎不全	14.1	11
不慮の事故	31.4	自殺	24.1	老衰	16.9	腎不全	13.7	12
不慮の事故	31.4	自殺	23.3	老衰	17.6	腎不全	14.0	13
不慮の事故	30.7	自殺	23.8	老衰	18.0	腎不全	14.4	14
不慮の事故	30.7	自殺	25.5	老衰	18.6	腎不全	14.9	15
不慮の事故	30.3	自殺	24.0	老衰	19.1	腎不全	15.2	16
不慮の事故	31.6	自殺	24.2	老衰	20.9	腎不全	16.3	17
不慮の事故	30.3	自殺	23.7	老衰	22.0	腎不全	16.8	18
不慮の事故	30.1	自殺	24.4	老衰	24.4	腎不全	17.2	19
不慮の事故	30.3	老衰	28.6	自殺	24.0	腎不全	17.9	20
老衰	30.7	不慮の事故	30.0	自殺	24.4	腎不全	18.1	21
老衰	35.9	不慮の事故	32.2	自殺	23.4	腎不全	18.8	22
不慮の事故	47.1	老衰	41.1	自殺	22.9	腎不全	19.4	23
老衰	48.2	不慮の事故	32.6	自殺	21.0	腎不全	19.9	24
老衰	55.5	不慮の事故	31.5	自殺	20.7	腎不全	20.0	25
老衰	60.1	不慮の事故	31.1	腎不全	19.8	自殺	19.5	26
老衰	67.7	不慮の事故	30.6	腎不全	19.6	自殺	18.5	27
老衰	74.2	不慮の事故	30.6	腎不全	19.7	自殺	16.8	28
肺炎	77.7	不慮の事故	32.4	誤嚥性肺炎	28.7	腎不全	20.2	29
肺炎	76.2	不慮の事故	33.2	誤嚥性肺炎	31.0	腎不全	21.0	30
肺炎	77.2	誤嚥性肺炎	32.6	不慮の事故	31.7	腎不全	21.5	令和元年
肺炎	63.6	誤嚥性肺炎	34.6	不慮の事故	30.9	腎不全	21.8	2
肺炎	59.6	誤嚥性肺炎	40.3	不慮の事故	31.2	腎不全	23.4	3
肺炎	60.7	誤嚥性肺炎	45.9	不慮の事故	35.6	腎不全	25.2	4
肺炎	62.5	誤嚥性肺炎	49.7	不慮の事故	36.7	新型コロナウイルス感染症	31.4	5

注2) 死因の分類について、平成29年からは「ICD-10(2013年版)」が適用されている。

(4) 主要死因

図3は、本県における主な死因の死亡率(人口10万対)の年次推移を表したものである。

① 悪性新生物

悪性新生物による死亡数は、令和5年は3,404人で、死亡率は235.9となっている。また、死因順位は第1位である。

② 心疾患

心疾患による死亡数は、令和5年は1,977人で、死亡率は137.0となっている。また、死因順位は第2位である。

③ 肺炎

肺炎による死亡数は、令和5年は548人で、死亡率は38.0となっている。また、死因順位は第5位である。なお、図3における肺炎の主な低下要因は、「ICD-10(2013年版)」「(平成29年適用)」による原死因選択ルールの特異化によるものと考えられる。

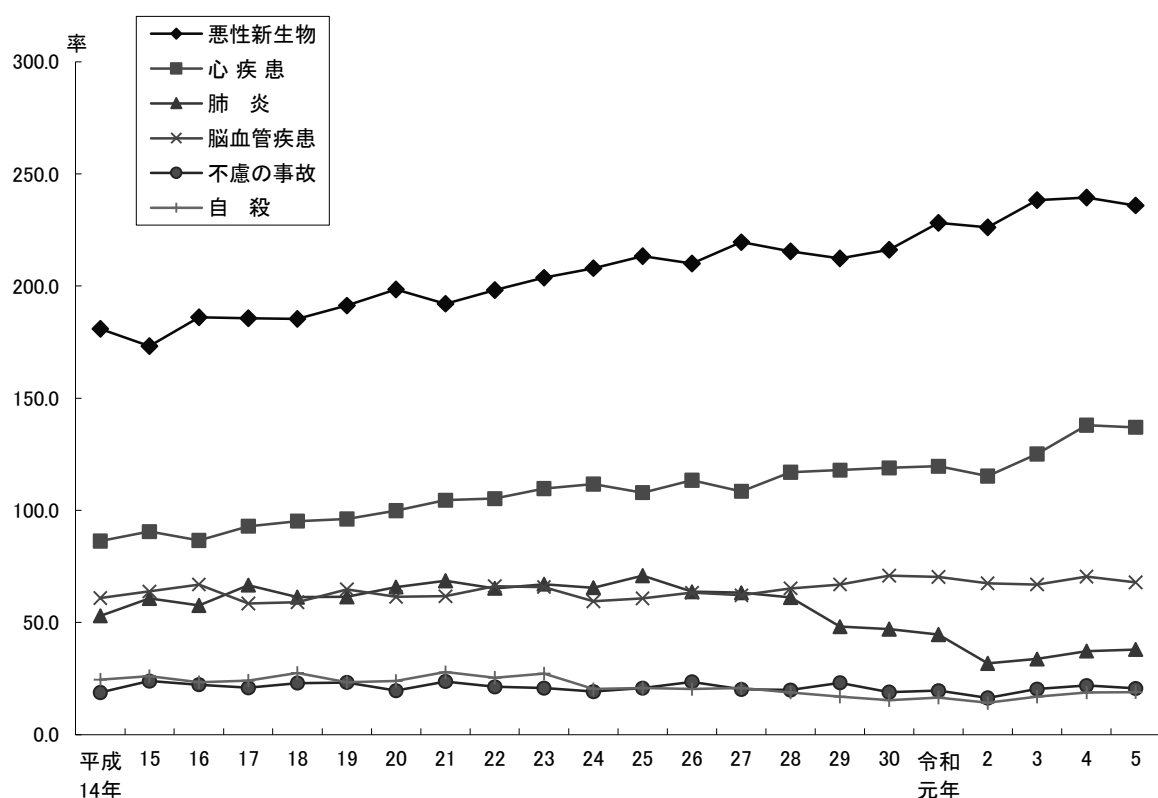
④ 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は、令和5年は980人で、死亡率は67.9となっている。また、死因順位は第4位である。

⑤ 老衰

老衰による死亡数は、令和5年は1,881人で、死亡率は130.4となっている。また、死因順位は第3位である。

図3 主な死因の死亡率の年次推移(人口10万対)



死因	平成14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
悪性新生物	181.0	173.2	186.1	185.7	185.3	191.3	198.5	192.2	198.2	203.7	207.9
心疾患	86.3	90.6	86.6	93.0	95.2	96.2	99.9	104.5	105.3	109.8	111.8
肺炎	53.0	60.8	57.7	66.7	61.3	61.4	65.9	68.7	65.3	67.1	65.5
脳血管疾患	60.9	63.8	67.0	58.5	59.1	64.9	61.4	61.7	66.3	65.8	59.5
不慮の事故	18.8	23.9	22.3	20.9	23.1	23.3	19.6	23.7	21.3	20.8	19.2
自殺	24.6	26.1	23.5	24.2	27.5	23.4	24.0	27.9	25.5	27.2	20.3
死因	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
悪性新生物	213.3	210.1	219.5	215.4	212.3	216.1	228.1	226.2	238.3	239.4	235.9
心疾患	107.9	113.5	108.5	117.0	118.0	118.9	119.7	115.3	125.1	138.0	137.0
肺炎	70.9	63.7	63.3	61.1	48.2	47.1	44.7	31.8	33.8	37.3	38.0
脳血管疾患	60.8	63.3	62.2	65.3	67.0	70.9	70.3	67.6	66.9	70.5	67.9
不慮の事故	20.8	23.5	20.2	20.0	23.2	19.0	19.7	16.4	20.4	21.9	20.6
自殺	20.8	20.3	20.7	18.9	17.0	15.4	16.5	14.2	17.0	18.8	18.9

表15、表16、表17はそれぞれ、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患について、男女別の死亡数、死亡率(人口10万対)及びそれぞれの死亡総数に占める割合を、悪性新生物は部位別、心疾患及び脳血管疾患は病類別に示したものである。

なお、死亡率については、男女それぞれの人口の10万対の死亡率であることに留意されたい。

表15 部位別悪性新生物死亡数・率(人口10万対)と割合

令和5年

部位	沖縄県						全国					
	死亡数		死亡率		割合(%)		死亡数		死亡率		割合(%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
悪性新生物	2,044	1,360	288.7	185.3	100	100	221,360	161,144	375.8	258.7	100	100
食道	81	13	11.4	1.8	4.0	1.0	8,647	2,103	14.7	3.4	3.9	1.3
胃	131	69	18.5	9.4	6.4	5.1	25,325	13,446	43.0	21.6	11.4	8.3
結腸	190	179	26.8	24.4	9.3	13.2	18,146	19,248	30.8	30.9	8.2	11.9
直腸S状結腸移行部及び直腸	115	46	16.2	6.3	5.6	3.4	9,790	5,947	16.6	9.5	4.4	3.7
肝及び肝内胆管	133	53	18.8	7.2	6.5	3.9	15,226	7,682	25.8	12.3	6.9	4.8
胆のう及びその他の胆道	81	56	11.4	7.6	4.0	4.1	9,220	8,019	15.7	12.9	4.2	5.0
膵	171	148	24.2	20.2	8.4	10.9	19,859	20,316	33.7	32.6	9.0	12.6
気管、気管支及び肺	493	167	69.6	22.8	24.1	12.3	52,908	22,854	89.8	36.7	23.9	14.2
乳房	-	169	-	23.0	-	12.4	134	15,629	0.2	25.1	0.1	9.7
子宮	・	81	・	11.0	・	6.0	・	7,137	・	11.5	・	4.4
卵巣	・	50	・	6.8	・	3.7	・	5,154	・	8.3	・	3.2
前立腺	154	・	21.8	・	7.5	・	13,429	・	22.8	・	6.1	・
白血病	81	59	11.4	8.0	4.0	4.3	6,095	3,774	10.3	6.1	2.8	2.3

注：率はそれぞれの人口10万対。

表16 病類別心疾患死亡数・率(人口10万対)と割合

令和5年

病類	沖縄県						全国					
	死亡数		死亡率		割合(%)		死亡数		死亡率		割合(%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
心疾患(高血圧性を除く)	997	980	140.8	133.5	100	100	113,133	118,015	192.1	189.5	100	100
慢性リウマチ性疾患	13	15	1.8	2.0	1.3	1.5	647	1,247	1.1	2.0	0.6	1.1
急性心筋梗塞	152	105	21.5	14.3	15.2	10.7	18,359	12,644	31.2	20.3	16.2	10.7
その他の虚血性心疾患	225	135	31.8	18.4	22.6	13.8	24,803	15,480	42.1	24.9	21.9	13.1
慢性非リウマチ性心内膜疾患	70	116	9.9	15.8	7.0	11.8	3,890	8,019	6.6	12.9	3.4	6.8
心筋症	24	20	3.4	2.7	2.4	2.0	1,921	1,488	3.3	2.4	1.7	1.3
不整脈及び伝導障害	104	116	14.7	15.8	10.4	11.8	18,341	17,686	31.1	28.4	16.2	15.0
心不全	280	399	39.5	54.4	28.1	40.7	41,058	58,175	69.7	93.4	36.3	49.3
その他の心疾患	129	74	18.2	10.1	12.9	7.6	4,114	3,276	7.0	5.3	3.6	2.8

注：率はそれぞれの人口10万対。

表17 病類別脳血管疾患死亡数・率(人口10万対)と割合

令和5年

病類	沖縄県						全国					
	死亡数		死亡率		割合(%)		死亡数		死亡率		割合(%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
脳血管疾患	519	461	73.3	62.8	100	100	51,684	52,849	87.7	84.8	100	100
くも膜下出血	50	64	7.1	8.7	9.6	13.9	4,139	7,033	7.0	11.3	8.0	13.3
脳内出血	202	133	28.5	18.1	38.9	28.9	17,895	14,818	30.4	23.8	34.6	28.0
脳梗塞	244	231	34.5	31.5	47.0	50.1	28,158	29,417	47.8	47.2	54.5	55.7
その他の脳血管疾患	23	33	3.2	4.5	4.4	7.2	1,492	1,581	2.5	2.5	2.9	3.0

注：率はそれぞれの人口10万対。

3 乳児死亡

(1) 乳児死亡の動向

生後1年未満の死亡を「乳児死亡」という。通常、出生千対の死亡率で観察する。

なお、乳児死亡のうち、生後4週未満の死亡を特に「新生児死亡」、生後1週未満の死亡を「早期新生児死亡」という。

表18は、乳児死亡数及び乳児死亡率を年次推移で示したものである。

これによると、令和5年の乳児死亡率は沖縄県、全国ともに1.8である。

表18 乳児死亡数・率の年次推移

年次	乳児 死亡数	乳児死亡率(出生千対)		年次	乳児 死亡数	乳児死亡率(出生千対)	
		沖縄県	全国			沖縄県	全国
平成8年	87	5.1	3.8	22年	46	2.7	2.3
9年	89	5.4	3.7	23年	40	2.4	2.3
10年	95	5.6	3.6	24年	46	2.7	2.2
11年	75	4.5	3.4	25年	30	1.7	2.1
12年	75	4.5	3.2	26年	47	2.9	2.1
13年	65	3.8	3.1	27年	34	2.0	1.9
14年	53	3.2	3.0	28年	31	1.9	2.0
15年	42	2.6	3.0	29年	41	2.5	1.9
16年	48	2.9	2.8	30年	24	1.5	1.9
17年	40	2.5	2.8	令和元年	19	1.3	1.9
18年	39	2.4	2.6	2年	39	2.6	1.8
19年	42	2.5	2.6	3年	23	1.6	1.7
20年	34	2.0	2.6	4年	23	1.7	1.8
21年	41	2.4	2.4	5年	22	1.8	1.8

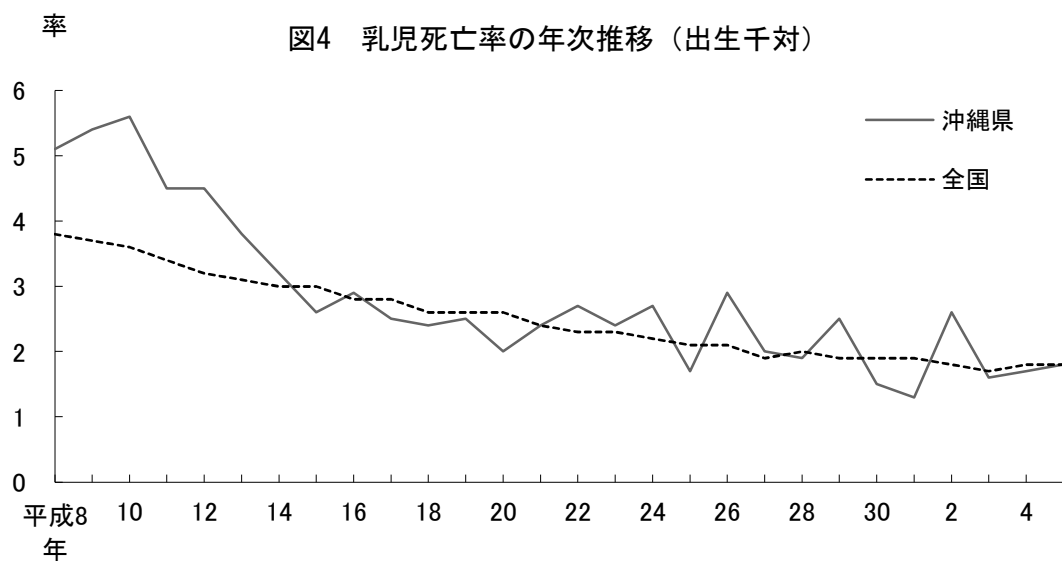


表19、20は、乳児死亡と新生児死亡の主な死因の死因順位を全国と比較したものである。

表19 死因順位を全国比較でみた乳児死亡数・死亡率(出生10万対)及び割合

令和5年

沖縄県					全国				
死因 順位	死因	乳児死亡		割合	死因 順位	死因	乳児死亡		割合
		死亡数	死亡率				死亡数	死亡率	
	総数	22	175.3	100		総数	1,326	182.3	100
第1位	先天奇形, 変形及び染色体異常	6	47.8	27.3	第1位	先天奇形, 変形及び染色体異常	464	63.8	35.0
2	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	3	23.9	13.6	2	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	188	25.8	14.2
3	心疾患	2	15.9	9.1	3	不慮の事故	73	10.0	5.5
4	敗血症	1	8.0	4.5	4	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	50	6.9	3.8
5	代謝障害	1	8.0	4.5	5	乳幼児突然死症候群	46	6.3	3.5
6	不慮の事故	1	8.0	4.5	6	心疾患(高血圧性を除く)	35	4.8	2.6
-	-	-	-	-	7	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	31	4.3	2.3
-	-	-	-	-	8	敗血症	23	3.2	1.7

注:1 死因順位の選び方は、別表参照。

2 死因名は、「ICD-10(2013年版)」(平成29年適用)によるものである。

3 割合は乳児死亡総数に対する割合。

表20 死因順位を全国比較でみた新生児死亡数・死亡率(出生10万対)及び割合

令和5年

沖縄県					全国				
死因 順位	死因	新生児死亡		割合	死因 順位	死因	新生児死亡		割合
		死亡数	死亡率				死亡数	死亡率	
	総数	9	71.7	100		総数	600	82.5	100
第1位	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	3	23.9	33.3	第1位	先天奇形, 変形及び染色体異常	244	33.5	40.7
2	先天奇形, 変形及び染色体異常	3	23.9	33.3	2	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	162	22.3	27.0
3	代謝障害	1	8.0	11.1	3	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	43	5.9	7.2
-	-	-	-	-	4	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	23	3.2	3.8
-	-	-	-	-	5	周産期に特異的な感染症	16	2.2	2.7

注:1 死因順位の選び方は、別表参照。

2 死因名は、「ICD-10(2013年版)」(平成29年適用)によるものである。

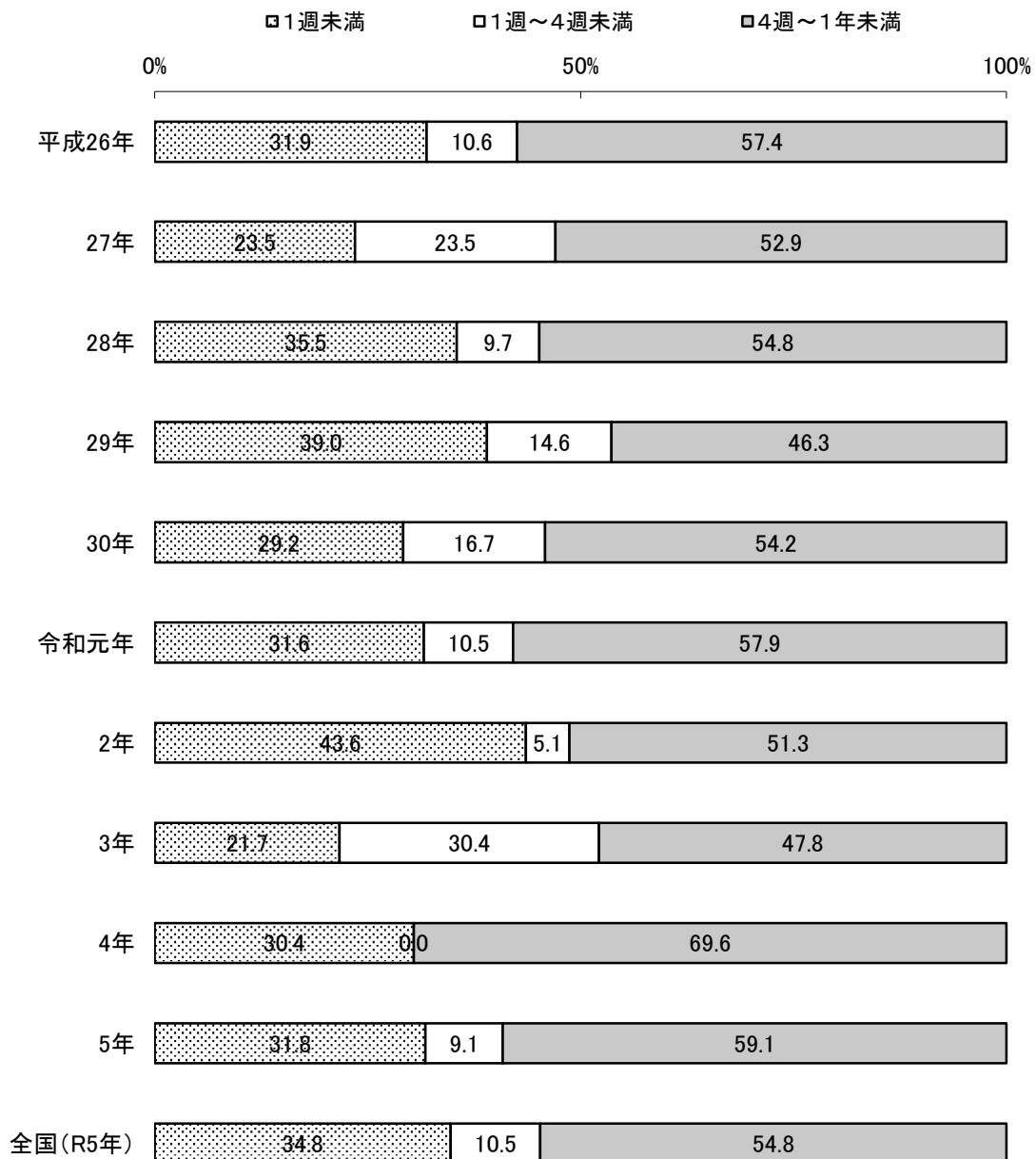
3 割合は新生児死亡総数に対する割合。

(2) 生存期間からみた乳児死亡

図5は、生存期間別乳児死亡割合の年次推移を示したものである。

これによると、令和5年の乳児死亡に占める早期新生児死亡の割合は31.8%、新生児死亡の割合は40.9%となっている。

図 5 生存期間別乳児死亡割合の年次推移



4 死産

(1) 死産の動向

死産は、死産の届出に関する規程第2条に規定する妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産であり、自然死産と人工死産とに分けられている。

表21は、自然死産、人工死産別の死産数、死産率及び全死産中に占める人工死産の割合を示している。これによると、令和5年の全死産数は312胎で、前年より13胎増加した。

表21 自然－人工別死産数・率(出産千対)と全死産中人工死産の占める割合

年次	沖縄県							全国		
	総数		自然死産		人工死産		人工死産 の占める割 合(%)	自然 死産率	人工 死産率	人工死産の 占める割合 (%)
	死産数	死産率	死産数	死産率	死産数	死産率				
平成26年	494	29.3	233	13.8	261	15.5	52.8	10.6	12.3	53.6
27年	423	24.4	202	11.6	221	12.7	52.2	10.6	11.4	52.0
28年	434	25.5	213	12.5	221	13.0	50.9	10.1	10.9	51.9
29年	428	25.7	202	12.1	226	13.6	52.8	10.1	11.0	52.2
30年	382	23.7	182	11.3	200	12.4	52.4	9.9	11.0	52.8
令和元年	370	24.2	180	11.8	190	12.4	51.4	10.2	11.8	53.8
2年	323	21.2	153	10.0	170	11.1	52.6	9.5	10.6	52.6
3年	367	24.6	200	13.4	167	11.2	45.5	9.8	9.9	50.3
4年	299	21.5	157	11.3	142	10.2	47.5	9.4	9.9	51.3
5年	312	24.3	165	12.8	147	11.4	47.1	9.6	11.3	54.0

注:総数及び自然死産には不明を含む。

表22 自然－人工妊娠期間死産数と割合

妊娠期間	沖縄県					全国		
	自然死産		人工死産		人工死産 の占める割 合(%)	実数		人工死産の 占める割合 (%)
	死産数	割合	死産数	割合		自然死産	人工死産	
総数	165	100	147	100	47.1	7,152	8,382	54.0
満12～15週(第4月)	58	35.2	60	40.8	19.2	2201	3149	20.3
16～19(5)	51	30.9	52	35.4	16.7	2172	3059	19.7
20～23(6)	35	21.2	35	23.8	11.2	1124	2167	14.0
24～27(7)	3	1.8	－	－	－	438	1	0.0
28～31(8)	4	2.4	－	－	－	290	1	0.0
32～35(9)	4	2.4	－	－	－	331	2	0.0
36～39(10)	9	5.5	－	－	－	486	3	0.0
40～	－	－	－	－	－	103	－	－
不詳	1	0.6	－	－	－	7	－	－

注:1 総数には、週数不明を含む。

2 ()内は数え月によるものである。

3 自然死産には不明を含む。

(2) 妊娠期間からみた死産

表22は、妊娠期間別の死産数と死産割合を示したものである。自然死産は一般に妊娠初期に多発し、その後は比較的に安定し、分娩直近になるとまた増加する傾向にある。

(3) 母の年齢からみた死産

表23は、母の年齢階級別に、死産率を示したものである。

表23 母の年齢階級別死産数と死産率(出産千対)

令和5年

母の年齢	沖縄県				全国	
	自然死産		人工死産		自然	人工
	死産数	死産率	死産数	死産率	死産率	死産率
総 数	165	12.8	147	11.4	9.6	11.3
14歳以下	－	－	1	500.0	37.0	463.0
15～19	6	30.2	29	145.7	14.7	160.9
20～24	15	11.5	43	32.8	8.3	38.8
25～29	30	9.5	18	5.7	7.2	8.4
30～34	41	10.0	24	5.9	8.2	5.7
35～39	54	17.4	19	6.1	12.3	8.6
40～44	18	18.7	13	13.5	17.9	17.4
45～49	1	31.3	－	－	23.9	42.0
50歳以上	－	－	－	－	19.4	9.7
不詳	－	－	－	－	333.3	－

注: 死産の自然、人工別には不明を含む。

$$\text{死産率} = \frac{\text{年間のある年齢階級の母親による死産数}}{\text{年間のある年齢階級の母親による出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$$

5 周産期死亡

(1) 周産期死亡の動向

周産期死亡は、妊娠満22週以後の死産と、生後1週未満の早期新生児死亡を表したものである。表24によると、令和5年は29人で前年より13人減少した。

**表24 妊娠満22週以後の死産－早期新生児死亡数・率
及び周産期死亡中妊娠満22週以後の死産の占める割合**

年次	周産期死亡数			周産期死亡率			周産期死亡中 妊娠満22週以後の死産の占める割合(%)
	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	
令和元年	36	30	6	2.4	2.0	0.4	83.3
2年	52	35	17	3.5	2.3	1.1	67.3
3年	46	41	5	3.2	2.8	0.3	89.1
4年	42	35	7	3.1	2.6	0.5	83.3
5年	29	22	7	2.3	1.8	0.6	75.9
全国(R5年)	2,404	1,943	461	3.3	2.7	0.6	80.8

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{妊娠満22週以後の死産率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{早期新生児死亡率} = \frac{\text{早期新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

(2) 周産期死亡の原因

周産期死亡の原因は、児側病態と母側病態の両方から観察している。表25は、周産期死亡について、母側病態－児側病態にみた妊娠満22週以後の死産、早期新生児死亡、周産期死亡数との割合を示したものである。

表25 死因(母側病態-児側病態)別にみた妊娠満22週以後の死産-早期新生児死亡数・割合

令和5年

基本 コード	死 因	死亡数			構成割合(%)		
		総数	妊娠満22週 以後の死産	早期新生 児死亡	総数	妊娠満22週 以後の死産	早期新生 児死亡
母 側 病 態							
P00 P01 P02 P03 P04 P97 P99	総数	29	22	7	100	100	100
	現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	3	3	－	10.3	13.6	－
	母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児及び新生児	2	－	2	6.9	－	28.6
	胎盤、臍帯及び卵膜の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	6	6	－	20.7	27.3	－
	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	－	－	－	－	－	－
	胎盤又は母乳を介して有害な影響を受けた胎児及び新生児	－	－	－	－	－	－
	母体保護法による人工妊娠中絶、母体の病態によらないもの	－	－	－	－	－	－
	母体に原因なし	18	13	5	62.1	59.1	71.4
児 童 側 病 態							
P05-P96 P05-P08 P10-P15 P20-P29 P35-P39 P50-P61 P70-P72 P76-P78 P80-P83 P90-P96 Q00-Q99 Q00-Q07 Q10-Q18 Q20-Q28 Q30-Q34 Q35-Q37 Q38-Q45 Q50-Q56 Q60-Q64 Q65-Q79 Q80-Q89 Q90-Q99	総数	29	22	7	100	100	100
	周産期に発生した病態	24	21	3	82.8	95.5	42.9
	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	－	－	－	－	－	－
	出産外傷	－	－	－	－	－	－
	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	3	－	3	10.3	－	42.9
	周産期に特異的な感染症	－	－	－	－	－	－
	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	1	1	－	3.4	4.5	－
	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	－	－	－	－	－	－
	胎児及び新生児の消化器系障害	－	－	－	－	－	－
	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	2	2	－	6.9	9.1	－
	周産期に発生したその他の障害	18	18	－	62.1	81.8	－
	先天奇形、変形及び染色体異常	4	1	3	13.8	4.5	42.9
	神経系の先天奇形	－	－	－	－	－	－
	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	－	－	－	－	－	－
	循環器系の先天奇形	1	－	1	3.4	－	14.3
	呼吸器系の先天奇形	－	－	－	－	－	－
	唇裂及び口蓋裂	－	－	－	－	－	－
	消化器系のその他の先天奇形	－	1	－	－	4.5	－
	生殖器の先天奇形	－	－	－	－	－	－
腎尿路系の先天奇形	－	－	－	－	－	－	
筋骨格系の先天奇形及び変形	－	－	－	－	－	－	
その他の先天奇形	－	－	－	－	－	－	
染色体異常、他に分類されないもの	2	－	2	6.9	－	28.6	
	その他の病態	1	－	1	3.4	－	14.3

6 婚姻と離婚

(1) 婚姻と離婚の動向

表26は、婚姻件数及び婚姻率の年次推移を示したものである。

これによると、令和5年の婚姻件数は6,316組で前年より230組減少した。

表26 婚姻件数と率の年次推移

年次	婚姻件数	婚姻率(人口千対)	
		沖縄県	全国
平成7年	8,401	6.6	6.4
8年	8,490	6.6	6.4
9年	8,458	6.6	6.2
10年	8,316	6.4	6.3
11年	8,480	6.5	6.1
12年	9,077	6.9	6.4
13年	8,990	6.8	6.4
14年	8,613	6.5	6.0
15年	8,494	6.3	5.9
16年	8,637	6.4	5.7
17年	8,808	6.5	5.7
18年	8,853	6.5	5.8
19年	8,620	6.3	5.7
20年	8,898	6.5	5.8
21年	8,989	6.5	5.6
22年	8,892	6.4	5.5
23年	8,401	6.0	5.2
24年	8,842	6.3	5.3
25年	8,803	6.3	5.3
26年	8,473	6.0	5.1
27年	8,695	6.1	5.1
28年	8,464	5.9	5.0
29年	8,084	5.7	4.9
30年	7,887	5.5	4.7
令和元年	8,027	5.6	4.8
2年	7,376	5.1	4.3
3年	7,020	4.8	4.1
4年	6,546	4.5	4.1
5年	6,316	4.4	3.9

図6 婚姻率の年次推移(人口千対)

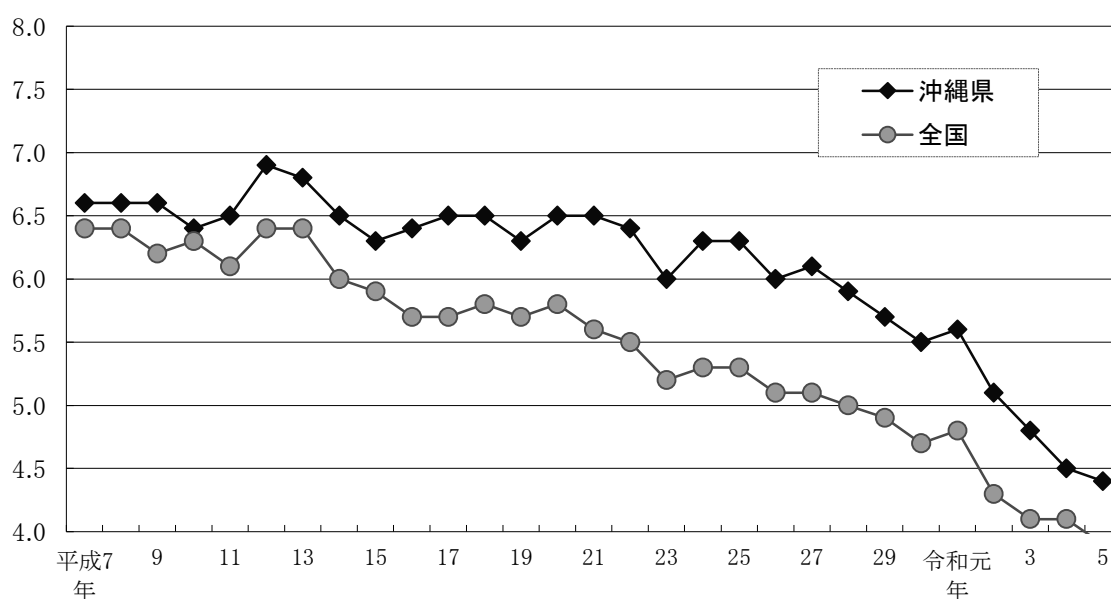


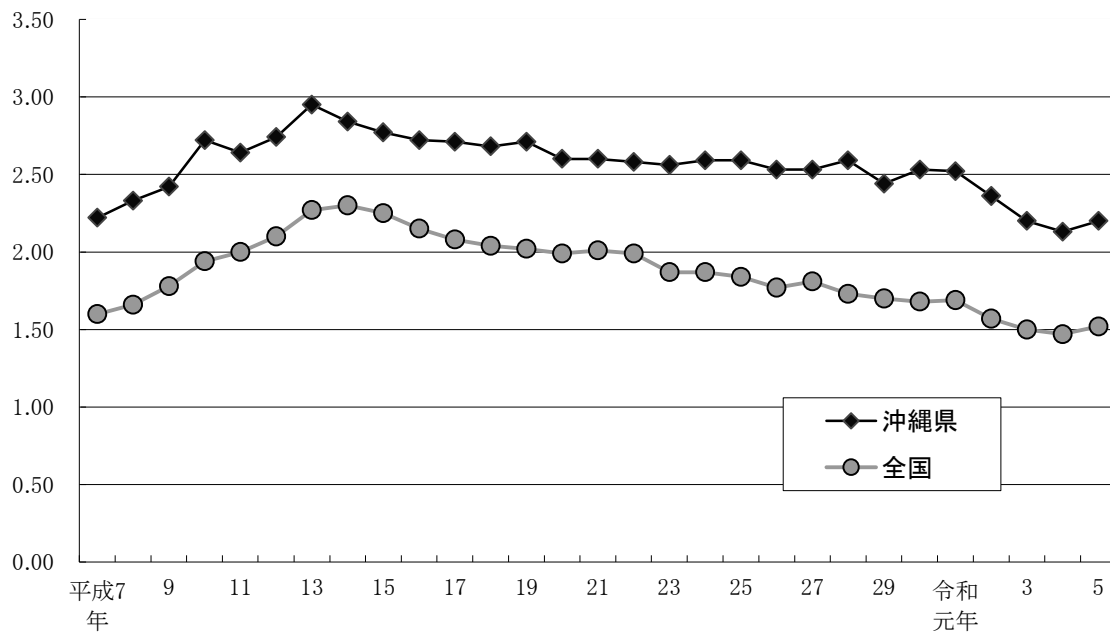
表27 離婚件数と率の年次推移

表27は、離婚件数及び離婚率の年次推移を示したものである。

これによると、令和5年の離婚件数は3,170組で前年より83組増加した。

年次	離婚件数	離婚率(人口千対)	
		沖縄県	全国
平成7年	2,804	2.22	1.60
8年	2,972	2.33	1.66
9年	3,109	2.42	1.78
10年	3,524	2.72	1.94
11年	3,442	2.64	2.00
12年	3,589	2.74	2.10
13年	3,902	2.95	2.27
14年	3,787	2.84	2.30
15年	3,722	2.77	2.25
16年	3,674	2.72	2.15
17年	3,667	2.71	2.08
18年	3,650	2.68	2.04
19年	3,698	2.71	2.02
20年	3,565	2.60	1.99
21年	3,579	2.60	2.01
22年	3,580	2.58	1.99
23年	3,570	2.56	1.87
24年	3,634	2.59	1.87
25年	3,651	2.59	1.84
26年	3,571	2.53	1.77
27年	3,603	2.53	1.81
28年	3,700	2.59	1.73
29年	3,484	2.44	1.70
30年	3,618	2.53	1.68
令和元年	3,617	2.52	1.69
2年	3,410	2.36	1.57
3年	3,187	2.20	1.50
4年	3,087	2.13	1.47
5年	3,170	2.20	1.52

図7 離婚率の年次推移(人口千対)



(2) 結婚生活に入った時の夫婦の年齢

表28は、令和5年に結婚生活に入った夫婦の結婚年齢別婚姻件数と割合を示したものである。

婚姻届については特に届出期限の定めがないため、実際には結婚生活に入っているにもかかわらず、届け出までにある程度の期間を要する事例もあることから、年齢の観察にあたっては、結婚生活に入ったその年のうちに届出を行った夫婦についてのみを対象としている。

表28 夫婦の結婚年齢(5歳階級)別婚姻件数と割合(令和5年に結婚生活に入ったもの)

令和5年

	件数				割合				全国(割合)			
	初婚		再婚		初婚		再婚		初婚		再婚	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総数	3,082	3,176	978	884	100	100	100	100	100	100	100	100
19歳以下	80	101	-	1	2.6	3.2	-	0.1	0.7	1.3	0.0	0.1
20～24歳	629	703	26	43	20.4	22.1	2.7	4.9	12.9	16.8	1.2	2.6
25～29	1,060	1,131	85	117	34.4	35.6	8.7	13.2	39.7	43.6	6.7	11.2
30～34	661	679	121	152	21.4	21.4	12.4	17.2	24.1	22.2	13.6	18.2
35～39	358	339	175	192	11.6	10.7	17.9	21.7	12.3	10.0	17.0	18.0
40～44	158	131	170	125	5.1	4.1	17.4	14.1	5.6	3.7	15.6	13.1
45～49	83	49	137	76	2.7	1.5	14.0	8.6	2.6	1.4	13.8	11.8
50歳以上	53	43	264	178	1.7	1.4	27.0	20.1	2.1	1.1	32.0	25.1
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-

注：夫婦の年齢は結婚式をあげた時又は同居を始めた時の年齢である。

表29 平均初婚年齢および夫婦の年齢差

年次	夫(歳)	妻(歳)	年齢差(歳)
平成26年	30.3	29.0	1.3
27年	30.3	29.0	1.3
28年	30.3	29.0	1.3
29年	30.1	29.0	1.1
30年	30.0	28.8	1.2
令和元年	30.6	29.3	1.3
2年	30.0	29.0	1.0
3年	30.4	29.3	1.1
4年	30.5	29.6	0.9
5年	30.2	29.5	0.7
全国(R5年)	31.1	29.7	1.4

注：届出年に同居し届け出たもの

表29は、平均初婚年齢及び夫婦の年齢差を示したものである。これによると、令和5年の平均初婚年齢は夫が30.2歳、妻が29.5歳である。

(3) 再婚の夫婦

表30は初婚、再婚別の婚姻件数と割合を示したものである。

また、夫婦の初婚、再婚の組み合わせは、表31のとおりである。

表30 初婚－再婚別婚姻件数と割合

令和5年

	夫		妻		全国(割合)	
	件数	割合	件数	割合	夫	妻
総 数	6,316	100	6,316	100	100	100
初 婚	4,896	77.5	5,091	80.6	81.5	84.0
再 婚	1,420	22.5	1,225	19.4	18.5	16.0

表31 夫婦の初婚－再婚別婚姻件数と割合

令和5年

	件数	割合	全国(割合)
総数	6,316	100	100
夫婦とも初婚	4,411	69.8	75.0
夫初婚・妻再婚	485	7.7	6.5
夫再婚・妻初婚	680	10.8	9.0
夫婦とも再婚	740	11.7	9.6

(4) 離婚の種類

表32 離婚の種類別離婚件数と割合

表32は、離婚の種類別に離婚件数とその割合を示したものである。

わが国では、離婚は夫婦間の協議に基づく届け出を行うことにより成立するため、離婚総数に占める協議離婚の割合が極めて高い。

年次	総数	協議	調停	審判	和解	認諾	判決
離婚件数							
平成26年	3,571	3,321	174	5	36	－	35
27年	3,603	3,324	211	5	37	－	26
28年	3,700	3,389	239	14	30	－	28
29年	3,484	3,175	242	28	28	－	11
30年	3,618	3,338	204	29	26	－	21
令和元年	3,617	3,332	211	32	20	－	22
2年	3,410	3,153	180	37	20	－	20
3年	3,187	2,908	182	53	25	－	19
4年	3,087	2,877	121	43	21	－	25
5年	3,170	2,942	132	58	18	1	19
割合							
平成26年	100	93.0	4.9	0.1	1.0	－	1.0
27年	100	92.3	5.9	0.1	1.0	－	0.7
28年	100	91.6	6.5	0.4	0.8	－	0.8
29年	100	91.1	6.9	0.8	0.8	－	0.3
30年	100	92.3	5.6	0.8	0.7	－	0.6
令和元年	100	92.1	5.8	0.9	0.6	－	0.6
2年	100	92.5	5.3	1.1	0.6	－	0.6
3年	100	91.2	5.7	1.7	0.8	－	0.6
4年	100	93.2	3.9	1.4	0.7	－	0.8
5年	100	92.8	4.2	1.8	0.6	－	0.6
全国 (R5年)	100	87.7	7.6	2.2	1.4	－	1.1

(5) 離婚した夫婦の同居期間

表33 同居期間別にみた離婚件数と割合

令和5年

表33は、結婚生活後どのくらい経って離婚したかを夫婦の同居期間別に示したものである。

結婚生活に入って10年以内の離婚は、本県では離婚全体の51.7%である。

同居期間	沖縄県			全国	
	件数	割合	累積	割合	累積
総数	3,170	100	－	100	－
1年未満	139	4.4	4.4	4.8	4.8
1～2年未満	195	6.2	10.5	5.9	10.7
2～3年未満	221	7.0	17.5	6.2	16.9
3～4年未満	211	6.7	24.2	6.2	23.1
4～5年未満	189	6.0	30.1	5.6	28.7
5～10年未満	685	21.6	51.7	18.8	47.5
10～15年未満	413	13.0	64.8	12.5	60.0
15～20年未満	343	10.8	75.6	10.5	70.6
20～25年未満	237	7.5	83.1	9.0	79.5
25～30年未満	118	3.7	86.8	6.0	85.5
30～35年未満	79	2.5	89.3	3.0	88.5
35年以上	99	3.1	92.4	3.7	92.2
不詳	241	7.6	100	7.8	100

(6) 届出時の夫婦の年齢

表34は、夫婦の年齢別の離婚件数の割合を示したものである。これによると、離婚が最も多い年代は、夫が35歳～39歳で15.4%、妻が30～34歳で16.2%を占めている。

表34 届出時の年齢(5歳階級)別離婚件数の割合

令和5年

年齢	件数		割合		全国(割合)	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総 数	3,170	3,170	100	100	100	100
～19歳	8	14	0.3	0.4	0.1	0.3
20～24歳	176	221	5.6	7.0	3.3	4.9
25～29歳	367	405	11.6	12.8	10.3	13.2
30～34歳	394	512	12.4	16.2	13.1	15.0
35～39歳	489	475	15.4	15.0	13.8	14.6
40～44歳	455	508	14.4	16.0	13.6	13.7
45～49歳	437	366	13.8	11.5	13.5	12.9
50～54歳	283	238	8.9	7.5	11.6	10.6
55～59歳	202	163	6.4	5.1	7.7	6.1
60歳～	359	268	11.3	8.5	13.0	8.7
不 詳	－	－	－	－	0.0	0.0

(7) 離婚した夫婦の子供の数

表35は、親権を行う子(満20歳未満の子)の数別に離婚件数とその割合を示したものである。これによると、親権を行う子のいる夫婦の割合は、65.6%、一方親権を行う子のいない夫婦の割合は34.4%となっている。

次に、子供の数による離婚件数の変化をみてみると、子供が1人いる場合が25.9%で最も多く、2人いる場合が23.0%となり、子供が多くなるほど割合は少なくなっている。

また、表36は、子供の親権をどちらの夫婦が行うかを示したものであるが、子供の数にかかわらず、妻が親権を行う場合が多い。

表35 夫婦が親権を行う子の数別離婚件数と割合

年次	総数	子供が いない	子供がいる					
			総数	1人	2人	3人	4人	5人以上
子 供 の 数								
平成30年	3,618	1,071	2,547	972	864	451	187	73
令和元年	3,617	1,108	2,509	993	858	459	149	50
2年	3,410	1,020	2,390	907	826	456	156	45
3年	3,187	1,018	2,169	858	729	390	151	41
4年	3,087	1,078	2,009	811	670	360	124	44
5年	3,170	1,090	2,080	821	729	354	136	40
割 合 %								
平成30年	100	29.6	70.4	26.9	23.9	12.5	5.2	2.0
			100	38.2	33.9	17.7	7.3	2.9
令和元年	100	30.6	69.4	27.5	23.7	12.7	4.1	1.4
			100	39.6	34.2	18.3	5.9	2.0
2年	100	29.9	70.1	26.6	24.2	13.4	4.6	1.3
			100	37.9	34.6	19.1	6.5	1.9
3年	100	31.9	68.1	26.9	22.9	12.2	4.7	1.3
			100	39.6	33.6	18.0	7.0	1.9
4年	100	34.9	65.1	26.3	21.7	11.7	4.0	1.4
			100	40.4	33.3	17.9	6.2	2.2
5年	100	34.4	65.6	25.9	23.0	11.2	4.3	1.3
			100	39.5	35.0	17.0	6.5	1.9
全国(R5年)	100	48.6	51.4	24.8	18.7	6.2	1.3	0.4
			100	48.3	36.3	12.1	2.6	0.8

注：親権を行う子とは満20歳未満の子をいう。

表36 親権を行う子の数別離婚件数の割合

年次	1人			2人				3人以上			
	総数	夫が親権	妻が親権	総数	夫が2児 の親権	妻が2児 の親権	その他	総数	夫が全児 の親権	妻が全児 の親権	その他
離 婚 件 数											
平成30年	972	131	841	864	93	738	33	711	57	582	72
令和元年	993	117	876	858	84	735	39	658	59	546	53
2年	907	107	800	826	99	685	42	657	72	538	47
3年	858	88	770	729	72	620	37	582	68	454	60
4年	811	119	692	670	65	577	28	528	41	437	50
5年	821	91	730	729	53	650	26	530	51	435	44
割 合 %											
平成30年	100	13.5	86.5	100	10.8	85.4	3.8	100	8.0	81.9	10.1
令和元年	100	11.8	88.2	100	9.8	85.7	4.5	100	9.0	83.0	8.1
2年	100	11.8	88.2	100	12.0	82.9	5.1	100	11.0	81.9	7.2
3年	100	10.3	89.7	100	9.9	85.0	5.1	100	11.7	78.0	10.3
4年	100	14.7	85.3	100	9.7	86.1	4.2	100	7.8	82.8	9.5
5年	100	11.1	88.9	100	7.3	89.2	3.6	100	9.6	82.1	8.3
全国 (R5年)	100	11.6	88.4	100	10.2	85.7	4.1	100	8.7	83.1	8.3

注：その他とは、夫と妻がそれぞれ分け合って子供の親権を行う場合である。